

町長の 施政方針 を

問う!

27年度当初予算の審議にあたり、議会開会日の3月2日、町長の施政方針演述が行われました。続いて、4人の議員が質疑に立ち、町長の見解を問いました。

町長施政方針

将来に責任の持てる町政を

「前へ、前へ」を念頭に

吉岡町は、人口減少社会の中にあつて、これからの人口が増え続けるとの国の公表があり、全国でも数少ない自治体の一つです。将来の展望をはつきりと見極めて、行財政運営に臨まなければならぬと、改めて責任の重大さを重く受け止めています。

27年度当初予算案の編成にあつて、これまで手がけた事業を円滑に、しかも着実に前進させ、かつ、やらなければならぬ事業にしっかりと前向きに取り組んでいきます。

主な大型継続事業は、

- ・南下城山防災公園整備事業
- ・駒寄スマートICの大型車対応化事業
- ・八幡山グラウンドの拡張事業

の3点とし、27年度予定の新規事業では、防衛省補助事業関連の

- ・社会体育館のリニューアル事業
- ・水道の老朽管布設替え工事実施設計

そのほかに、

- ・国民健康保険税および学校給食費の引き下げ
- ・児童館の耐震補強工事
- ・駒寄小学校トイレの改修工事
- ・午王頭川親水公園基本構想の策定

など、町民の要望にこたえる施策や子ども子育て支援の施策、新規の主要事業を手がけていく所存です。

「前へ、前へ」を念頭に、「将来に責任の持てる町政」に全力を尽くします。

小池 春雄 議員

問

行政運営を行うにあたり、景気の動向、国の動向を見る中で、そこですりぬけ部分やどのようになっているかが大きな問題になるので、ぜひ考えていただきたい。非正規雇用が38%という結果が出ている。この数字を見ると、国民の中に貧困化と経済格差が広がっている。子どもの成長は親の収入によって決まるとも言われている。収入の少ない人たちに行政がどのような手当てをしているかが大きな問題となっているが、そこに手厚くやっていく考えはあるか。

町長

「子どもを育てるなら吉岡町」ということでやってきた。今までも子育てに関してはやってきたが、他町村から比べても先にやることはやってきたと思っている。他町村と比べて子どもが大分いるという中においては、それを親身に物事をやっていかないと、吉岡町も住んでく

れる人がいなくなってしまうのではないかと思っている。議員の方にも、全国の良いところを見つけていただき、提言をいただいているが、そういった中에서도吉岡町は、子育てについては重点的にやっていきたい。

神宮 隆 議員

問

交通網の整備で、渋川市と広域連絡協議会を発足させたというが、目的とメンバーは。

町長

渋川市の呼びかけで広域連絡協議会をつくっていかうというところで進めているが、まだメンバーは決まっていない。前橋渋川バイパスからサントリの南を通って、西に向かつていく道路は、渋川と吉岡が協力しなければできない。

総務政策課長 渋川市も独

自ではできないので県道に認定してもらい、県でやってもらおうようにしたい。

問 川久保踏切は、広さが2.5倍程度で車一台

がやっと通れるだけで道路の形状が悪く、朝晩混んでいる。上武国道の開通も2年先で、陸橋方式では費用も年数もかかる。広域連絡協議会に提案し、平面拡幅をJRに働きかけられないか。

総務政策課長 渋川市はオーバー踏切を設定している。JRは平面交差は認めない。

問 八幡山グラウンド拡張整備事業は3年目を迎える。多目的に利用できるグラウンドを完成させるというが、このレイアウトはどのように計画しているのか。

教育長 懇談会で協議して基本設計に入っているとこゝろで、野球場、サッカー場、陸上トラック200m、外周コース580mを考えている。

問 南下城山防災公園整備事業完成後、維持

管理費の圧縮に努めるというがどう考えているか。

町長 できた状態で経費がかからない施策を考えていく。

馬場 周二 議員

問 町長の過去8年間の実績から、どんな施策を重点に伸ばしたいと考えるか。

町長 人口減少など頭に入れながら、今の状況から一歩でも前に出る施策を取っていきたい。

問 観光事業に対するまちの考えは。

町長 観光は一番遅れていると思う。観光と言えば上野原が中心のものになると考えるが、どんなかたちでできるか今後観光に力を入れていく。

問 まち指定名所「船尾滝」について観光化をもっと進める考えは。地域創生事業活用は。

町長 道路などは、補助の対象にはならな

い。しかし県でも一番の船尾滝となれば、まちなみも入れなくてはと思い、もう一度見直す時期にしている。

問 児童の安全や事件の未然防止から通学道路への防犯カメラ設置は。

町長 まちが所有する施設管理を目的に20基程度予算化した。事件解決に防犯カメラが大分効果を発揮している。引き続き継続していく方向性で考えている。

問 高渋、バイパス開通に対し、沿線の開発が考えられるが、都市計画を検討しているか。

町長 土地利用の見直しは町全体を考えやっていると、高渋バイパスの沿線も検討している。

問 高齢者の交通手段について、まちはどのように考えているか。

町長 公共交通のマスタープランは、現在作成中で今年度完成する。来年度以降、何がまちでできるか公共交通の施策を一

ついつ進めていく。多くの町民は、町内を巡回する交通手段が必要と考えるが、町長の考えは。

町長 いろいろな面でもここに行くにも出ていけないという状況が起きているのではと思っている。十分にそういった面を考え研究していく。

金谷 重男 議員

問 自治法で義務付けられている第5次総合計画達成度は。

町長 4年目が経過したが、検証をしてみたい。

問 施政方針で地方交付税減額に関して、「人口増の吉岡町には不利」と述べたが、固定資産税などの財源が伸びているまちな

町長 インター東は、2つの企業が出てくるが、正式に図面をもってきたのは、1社だ。

問 インター西の新産業ゾーンの開発だが、土地開発公社活用に関しては土地を持ちすぎたということで、土地開発公社をやめる市町村もあるが、土地開発公社を

中之条町が1億8千万円、榛東村は数千万円と聞く。まちは今年度の予算が100万円計上されているが、ふるさと納税は、納税者が二重補助を受け、脱税ではないかと政府は考えていると思う。中之条町のやっているのはいい案だと思う。提案制度などをまちでもやってみようと言っている。

利用しながらやっていくのもいいのではと思っている。いくらか世間も景気が上向いてきたので都内から100m以内は開発しやすい。安心なまちではないか。

問 大樹町への小学生の自然体験は、定員超過の場合「抽選」で決定したというが、抽選で行けなかった子どもたちもいたのか。

町長 抽選だから行けない方もいたと思っ

ている。